

日ポ・サロン会報

日ポ・サロン会報 第14号

発行日 平成26年3月20日
事務局 日ポ・サロン
〒595-0041 泉大津市戎町6-10
TEL.0725-32-6328
FAX.0725-31-3747
E-mail: donkawai@pearl.ocn.ne.jp



ワルシャワにあるワジェンキ公園内の水上宮殿

「有由 有縁」

NPO法人 日ポ・サロン 理事長

河合 康子

平成25年も昨年同様、実りの年であったと言えます。

私達をもっと日本で勉強をしたいと言う学生達に幾らかの学費を援助した中の2人が、今まで何人もが挑戦しても得られず、至難の業であった日本語で京都大学の博士号を取得しました。

又、元留学生が日本人男性と国際結婚をし、2世が続々と誕生しています。母親はポーランド語で父親は日本語で子供達に接していて、日本語とポーランド語のバイリンガル2世の子達が、将来、両国の間でどのような役割を果たしてくれるのか想像するだけで楽しくなります。

「有由 有縁」という言葉は「わけありてこそ縁あり」という川端康成の言葉です。

ポーランドとの出会い、日ポ・サロンと一緒に立ち上げた仲間との出会い、そしてこの15年間に会員に成って下さった人々との出会い、数多くの留学生との出会いが日ポ・サロンのカラーを作り上げてきたと思います。この会に来たら楽しいとか何かしら勉強になるとかいった声もよく聞かれるようになりました。これからも会員の皆様と留学生達と共にもっともっと楽しく、暖かく、勉強になるような会にしていきたいと願っています。

総会並びに講演会・親睦会

2013年1月19日(土)

於/KBS「桐の間」

会員30名・お客様3名・留学生7名

*第一部 総会 11:30~12:00

〈前年度事業報告〉 河合康子

〈前年度収支報告〉 岸本啓子

監査報告 長岡 正

〈今年度事業計画〉 河合康子

第12期留学生招聘

〈新役員紹介〉

理事長: 河合康子

理事: 澤瀉徹郎・長岡 正・岸本啓子
吉岡久代・田中サヨ子・樋口晴子

顧問: 高島和子

(前在大阪ポーランド共和国名誉総理事)

*第二部 講演会 12:00~12:40

「ワルシャワ大学と神戸大学の 交換留学による日本の学生について」

講師 元神戸大学教授 影山純夫氏

〈プロフィール〉東北大学大学院修士課程終了後、山口県教育庁に就職、山口県立美術館の学芸員等を6年勤務。山口大学教育学部に転職16年在職、神戸大学国際文化学部へ移動、平成24年3月31日退職、自宅にて伝統芸術研究塾を開くため準備中。

*第三部 留学生紹介並びに昼食親睦会 12:50~14:30

留学生マチェイ・コモロフスキ氏のお話

「日本に来て」感想など

「年次総会と講演会を迎えて」

樋口 晴子

理事会の役員として初めて迎えたこの日、慣れない手順等皆様の協力で予定通り総会が始まりました。

第一部からプログラム通り進み、第二部の講演会、元神戸大学教授 影山純夫氏の「ワルシャワ大学と神戸大学の交換留学による日本の学生について」の講演の中で、

- ・2004年神戸大学とワルシャワ大学との学術交流協定が締結したこと
- ・国際文化学部留学学生(2005~2012年)9名の神戸大学生が行ったこと
- ・派遣学生選考は国際交流委員会の教員による面接があること
- ・ポーランドの宿舍、ヘラホテルへの費用のこと

- ・単位認定はポーランド語基礎A1、A2等、20単位取得
- ・学生の感想はワルシャワ大学の受け入れ体制の評価は高く旅費も比較的安く済む
- ・その他、医療費が高い

など、報告の後、パワーポイントでワルシャワ大学のお茶室の様子を紹介され、学生たちが楽しく日本の文化に親しんでいる様子がうかがえ嬉しく思いました。

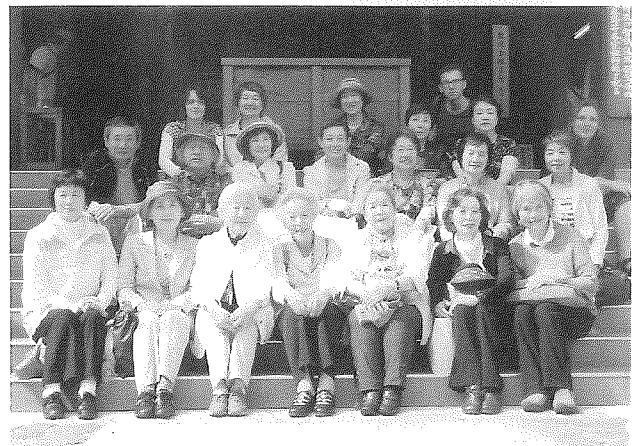
第三部、留学生マチェイ・コモロフスキさんの「日本に来て」について、好きな写真について等、楽しく色んな体験をしたいと希望に満ちた話を聞き、力になりたいと思いました。続いて5人の留学生の一言メッセージを聞き、勉強に頑張っている姿に感動いたしました。

会員の皆様のお陰で充実した総会を終えることが出来、感謝したい気持ちでいっぱいです。

「比叡山延暦寺方面・春の遠足」

2013年5月18日(土)

会員17名 留学生3名 お客様5名



中田 千賀子

週間予報では雨だったのに、当日は予報に反して五月晴れのいいお天気でした。朝10時に、京都駅八条口に集合、そして昼食場所のロテル・ド・比叡の送迎バスにて出発。混雑の京都市内を抜けて、出町柳、北白川別当町を経て、下鴨大津線(山中越)で、比叡山ドライブウェイに。新緑の木々と満開の山藤の紫のなかを走り抜けて昼食場所に到着。昼食準備が出来るまでの間、各自、庭の散策や売店で買い物などして、時間を過ごしました。テラスからの眺望も良く、琵琶湖(大津、膳所方面)が見渡せ、遠くには近江富士も、あいにく雲がかかっていましたが・・・。

本日の楽しみの一つ昼食はフレンチスタイルのコース料理で、河合理事の挨拶で始まり、1時間半ほど、各テーブルで食事を楽しみ歓談。1時、ホテルのバスにて、比叡山延暦寺へ。比叡山延暦寺は京都と滋賀の県境にあり、標高848mの比叡山全域を境内とする寺院で、東には琵琶湖を眼下に望み、西には京都の町並みを一望できる景勝地でもあります。平安時代初期の最澄によって開かれた日本天台宗の本山寺院で、日本仏教の母山と呼ばれ、さまざまな高僧が集い、特に

鎌倉時代には、法然、栄西、親鸞、道元、日蓮などの祖師が修行され、比叡山を母体とした独自の教えを開いていきました。また、高野山・恐山とともに、日本三大霊山の一つに数えられています。

1571年の織田信長の焼き討ちで、延暦寺の堂塔はことごとく炎上。信長の死後、豊臣秀吉や徳川家康によって各僧坊は再建され、根本中堂は、徳川家光によって再建されました。延暦寺入口には、「登叡成仏」と書かれた大きな石碑があり、迎えて下さった先達さんの説明では、比叡山にお参りすれば成仏できるとのことですが・・・。

比叡山は大きく三塔（東塔・西塔・横川）の地域に分けられていて、今日は東塔エリアを散策です。入口を入り、ひんやりと気持ちのいい風を感じながら、途中、大講堂を経て少し長い坂道を下り、所々、ユーモアを交えた先達さんの説明を受け、国宝の根本中堂へ。根本中堂は、比叡山三塔十六谷の中心で、延暦寺総本堂です。本堂には、伝教大師ご自作の本尊「薬師如来像」、その前に開祖以来1200年間消えることなく灯り続けている「不滅の法灯」があります。この法灯は、信長の焼き討ちで一時途絶えましたが、山形県の立石寺（通称・山寺）に、分灯されていたものを移し、現在に伝わっているそうです。

内陣は、参拝者のいる中陣・外陣より低い位置にあり、本尊「薬師如来」や法灯が参拝者の目の高さにきているのは、「仏凡一如」、仏も人もひとつ、という仏教の教えを表しているのだそうです。

内陣でのお参りを済ませ、集合時間まで自由行動。「大黒堂」の本尊は大黒天、毘沙門天、弁財天の顔をもつ三面大黒天をまつり、出世大黒天とも言われています。比叡山の総門の役目を果たす重要な楼門、文殊菩薩がまつられていて、受験生の合格祈願に人気の「文殊楼」。僧侶が法華經の講義を聞いたり、問答をして勉強する学問修行道場、本尊は大日如来をまつり、法然、親鸞、栄西、道元、日蓮などの等身大の尊像が安置されている「大講堂」、その前庭にある平和の鐘（開運の鐘）は、普段は誰でも50円で突くことができます。

いよいよ本日も終盤、大講堂の前の石段で記念撮影を済ませました。その後、送迎バスで帰路に。途中、三条京阪で一部降ろしてもらい、京都駅で解散。

雨の心配もなく、五月晴れの日を、比叡の新緑の薫りと山の爽やかな空気に、身も心も癒された一日でした。今日の遠足を準備して下さった方々に感謝とお礼を申し上げます。ありがとうございました。

マチェイさん送別会

2013年8月17日（火）

於/神戸大学国維寮

会員30名 留学生4名



「マチェイさんの送別会」

石毛 納子

異常な暑さの8月17日からずいぶん日が経ったというのに、私の心の奥深いところに、マチェイさんの姿がちらほらと現れては消えておりました。そんな折、河合様から送別会について一筆とのご依頼があり、簡単にお引き受けしてしまい数日間後悔しておりました。というのは、彼が1月に来日されて、既に彼の研究テーマの「60年代の日本映画について」「日本に来て」等、質疑応答もなさったとのこと。そして今日まで、サロンのメンバーが色々と彼の為に面倒をみてお世話なされた様子をうかがい、私は何もしない、知らないで送別会だけに参加すること自体、心苦しかったのです。

今の日本の学生や若者は、適当に器用に生きている人が多い中、たった3時間余りの短時間に、彼の立居振舞の敏捷さを感じ取り、初対面にしては、はっきりと和む気分させられました。

送別会というのは、去り行く人を心を込めて何かをして差し上げ、お送りすることなのに、反対に彼から強烈なものを受けてしまいました。

ポーランドのスープ「ジューレック」とデザートの手間暇のかかるクレープを徹夜で焼き上げたとのこと。それにしても物量的に買い物も大変だったでしょうに。心のこもった温かい家庭料理を味わわせて頂きました。男の子が自室を公開するなんて考えられないこと。限られたスペースに小さな仏壇を作り、線香をたき、鐘の音が廊下に伝わってきた時は、美しい心のポーランド、素晴らしいご家庭で育てられたこと聞かずと知れたことです。

カメラのことは何も知りませんでしたが、机の上に置かれたモノクロの作品と最後に私たちに配られた富士の写真からしても、彼の頭は研ぎ澄まされて、肩肘張らず、手抜きせず、無駄なもの排除し「シンプルイズベスト」なんだろうね。

素直で爽やかな青年に会えて嬉しく、すぐにお別れするなんて、複雑なひとときでした。



「日本滞在記」

マチェイ・コモロフスキ

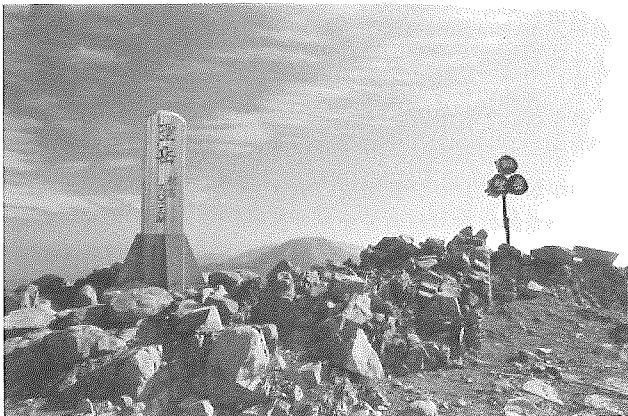
(神戸大学国際文化学部)

私が8歳の時に、テレホンカードを集めるのが流行っていて、私も集めていました。私にとって一番貴重なカードは富士山の写っている日本製のカードでした。その富士山が写っていたカードを夜、寝る前に見ながら「将来に登れたらいいな!」と思っていました。

2012年の10月に日ポ・サロンの支援のおかげで神戸大学に留学できることになりました。その時、日本で過ごした1年2ヶ月は人生最高の時になるとは思わなかったです。すぐ、神戸の雰囲気を好きになりました。自然の愛好家として、喜んで国維寮に転入したら、海も山も見える場所ですごく感動しました。毎日大学に通っている時、この遠い海の青さを感じていました。山の影で涼しくジョギングもできましたし、時々山から来るイノシシにも会いました。

そして大学に入って、一番面白そうな授業を選びました。板倉先生と寺内先生が私の卒論のためにたくさん資料を集めてくださって、論文に役立つ映画の分析が出来ました。日本語と映画に関する授業だけではなく、ポーランドの大学にない部活にも憧れていましたので、すぐに写真部に入り、その部員のみさんと仲良くなりました。部室と暗室の雰囲気は忘れられません。徹夜で友達と写真を焼いたり、話したりするのは楽しかったです。そこで現像して引き伸ばした写真を使って、神戸で2回展覧会に出しました。その時に私の作品を見に来てくださった日ポ・サロンの方々にとっても感謝します。

美しい国である日本で出来るだけ旅行しようと思っていました。日ポ・サロンの方々、特に澤山さん家族と金子さん家族と田中さん家族のおかげで、日本のすばらしいところに訪れることができました。姫路城、倉敷、伊勢神宮、有馬温泉の金湯、奈良、比叡山など。それぞれの場所に特別な雰囲気があることを忘れないように写真に写しました。また、沖縄の座間味島、高野山と奥の院、淡路島、東京など色々なところにいきました。でも一番楽しかったのは、山登りでした。



一番憧れていた富士山の山登りを6月にしました。わざとまだ山小屋が開いていない、誰もいない季節にしました。なぜなら人々の行列で山の美しさを鑑賞できないと思ったからです。大きいバックパックにテント、寝袋、マット、食べ物、ストーブを入れて御殿場五合目という一番低いスタート地点から出発しました。3千4百mの高さでテントを張って一泊し、次の日に登り続けました。

頂上に着いたのは、ちょうど富士山が世界遺産として記録された日で6月23日でした。初めて富士山に登ってみたいと思った時から17年後、まさか自分がこの場所に立っているとは思わなかったので、日ポ・サロンの方に本当に感謝しています。

また8月に南アルプスで1週間のハイキングをしました。ポーランドの山より立派な山脈で、毎日朝の4時半から素晴らしい景色を鑑賞しながら一人で登ることはすごく落ち着きました。

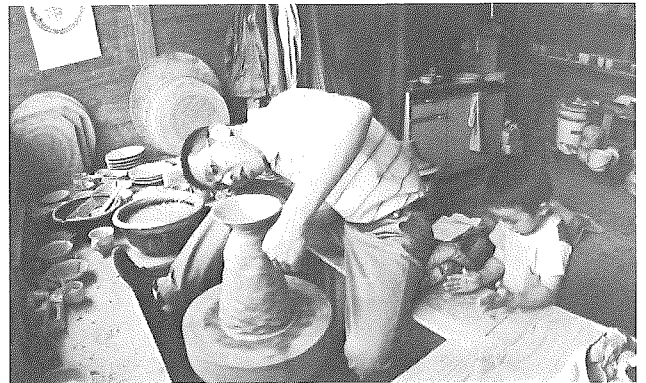


他に現実になった夢は地車祭りに参加できたことでした。5月上旬に寮の近くにある神社で行われている行事でした。法被を着て、歌を歌いながら灘区の細い道で一所懸命地車を押したり、上げたりしました。7月の天神祭もすごく印象的でした。私は灘区が特に好きになった理由は、その辺りに面白いところがいっぱいあったことでした。日本の陶芸が大好きな私は、よく古物屋さんに寄って、茶碗やお猪口など安く買いました。日本酒が大好きになったので、酒心館へ行ったこともあります。なお、あっちこっちにある古本屋で日本人の写真家の写真集や私の卒論に関する本を探しにいきました。

ジョギングをよくしていたので、次の日、筋肉痛があると必ず安い温泉で、ゆっくりリラックスしていました。こんな様子で毎日日本での生活を楽しんでいました。

ポーランドと日本の間の距離で、家族のことが懐かしく感じることもありましたが、澤山さん家族と金子さん家族のおかげで日本の家族がいるように感じられました。特に澤山さん家族と過ごしたお正月は楽しかったです。色々な和食の作り方を教えていただいたので、寮でも自炊ができるようになりました。高島様のおかげで親切な方々とお会いできて、何回か茶道のお稽古に参加しました。

留学が終わった後、もう少し日本での滞在を伸ばすことにしました。9月に東北で2週間過ごしました。青森県の恐山



や十和田湖などを見て南に向かいました。岩手県を通って仙台市まで行きました。途中でそれぞれの被災地で泊まったりボランティアしたり、写真を撮ったりしました。撮った写真を現像して、いつか地震がないポーランドで日本人の苦労と勇気を見せる予定でした。

将来、ポーランドと日本の架け橋になりたいと思っていたので、10月と11月に駐日ポーランド大使館でインターンシップも経験しました。この2ヶ月の間に、東京でポーランド文化を広げるための様々なイベントが行われたので、そのお手伝いを一生懸命しました。

日ポ・サロンの皆様のおかげで、日本で過ごした時間は言葉では言い切れないほど、大切な経験になりました。14ヶ月の素晴らしい時を忘れません。最後に本当に日ポ・サロンの方々に感謝します。ありがとうございました。

文中掲載の写真3点は、マチェイ・コロフスキさんの写真コレクションから抜粋。数多くの作品はモノクロ撮影されており人や自然への温かな眼差しを感じます。(岸本啓子)

「ポーランド日本語研修ショートステイ」

2013年8月23日(金)～9月3日(火)
研修生5名



ショートステイ行動報告書

<参加者>ワルシャワ大学日本学科付属日本語学校生徒5名
モニカ・ビエニ、アンナ・ビエジビツカ、アリツア・ザボシェツカ
クリスティナ・マズル、ミハウ・キシレフスキー

月 日	午 前	午 後	ステイ先
8/23金	海遊館・かつ庵で昼食	心斎橋・道頓堀・戎橋 法善寺横町・難波 日本橋・道具屋筋・通天閣	河合康子(会員) 樋口晴子(会員) 戸堂都子(会員)
8/24土	スカイビル空中庭園展望台 B1他・滝見小路観光記念館 散策・昼食	ヨドバシカメラ・大阪城 京橋でお茶の後、帰宅	
8/25日	国立博物館で雨宿り後 昼食	東大寺・二月堂・興福寺 18:00 心斎橋大丸	
8/26月	澤山様宅 料理講習会・昼食	神戸ハーバーランド・南京街	
8/27火	中華料理・昼食招待	14:00 岸本、ミハウ出迎え 各家庭で夕食	
8/28水	御所散策後、パレスサイドH で昼食	観世流能楽堂見学 錦通り・寺町・新京極	岸みどり (会員の友人) 長岡 正(会員) 岸本啓子(会員)
8/29木	金閣寺・今宮神社	銀閣寺・哲学の道・南禅寺 円山公園・八坂神社・祇園	
8/30金	御所	漫画ミュージアム	
8/31土	伏見稲荷	三十三間堂・清水寺	
9/ 1日	東寺がらみた市	東寺境内・京都タワービル	
9/ 2月	自由行動		
9/ 3火	自由行動		
関空発EK0317 23:40 (MKTAXI) モニカ・アンナ・ミハウ・クリスティナ			

「日本語研修ショートステイを終えて」(1)

モニカ・ビエニ
(ワルシャワ大学日本学科卒業)

このごろ大変お世話になっておりまして、誠にありがとうございました。まず、大阪の樋口晴子様のお宅でアンナさんと泊まらせていただきました。私は来日したのは四回目だったのに、大阪は初めてゆっくり見られました。もちろん大阪城はその前にも見たことがありますが、通天閣、海遊館、梅田スカイビル、日本橋などが初めて見ました。大阪はにぎやかでいい雰囲気でした。奈良も見物できまして、良かったと思います。8月26日に神戸の澤山様のお宅で天ぶらの体験はとても面白くて楽しかったです。そして8月27日にアゴラホテルで中華料理の昼食に誘っていただいてありがとうございました。高級な中華料理を初めて体験した私たちのポーランドのグループの皆にそれは面白かった経験だと思っています。その日、皆はホストファミリーとゆっくり時間を過ごしたと思いますが、私とアンナさんは樋口晴子様と樋口清嗣様とたこ焼きを作って、小さなたこ焼きパーティーをしました。

それから京都へ行きました。そこで岸みどり様のお宅で泊まらせていただきました。岸みどり様のご家族は皆親切で、優しくかったです。あいちゃんという犬も可愛くて、大好きでした。9月1日はお隣の家族と一緒に晩御飯を食べて楽しかったです。

京都で古いお寺や神社はいっぱいありましたが、一番印象的なのは三十三間堂あるいは東寺でした。東寺の五重塔に入れるのを光栄に思います。

日ポ・サロンの皆様はとても優しくて心から感謝します。大体毎日、日ポ・サロンの方々は私たちと一緒にあちこちに行ってください心から感謝しております。それにホームステイも出来て、そのおかげで私たちは、日本人の毎日生活はどんな感じが少しでも分かるようになりました。ホームステイファミリーの皆様のご親切なおもてなしで感動しました。

「日本語研修ショートステイを終えて」(2)

ミハウ・キシレフスキー
(日本語学習3ヶ月)

私はあまり旅行が好きじゃありません。でも日本へのはこれは別のことです。むかしからわたしは日本に行きたかったです。ほんものの日本はすごくおもしろいくにです。日本人はほんとうにやさしくてしんせつな人です。もちろん、私たちの日ポ・サロンのホストファミリーはすごくやさしかったです。私はたくさんみえました。すべてはおもしろかったです。うめだスカイビルやつうてんかくすばしくて、たかいビルです。おてらとじんじゃではほんとうにドキドキしました。

とうだいじやきよみずでらや三十三げんどう。あれはすごいです。きょうとのごしょは大きくてすてきのところだともいます。そしてならのしかはすごくかわいかったです。

日本のたべものとポーランドのたべものはとてもちがいます。このちがいがこそはおもしろいです。もちろん、ぜんぶはおいしかったです。日本のりょうりも中国のりょうりも。

私はマンガとアニメが好きですから、おおさかのにっぽんばしはすばらしいところだともいます。私はポーランドにかえったのは、ちょっとかなしくおもいます。このりょうりはすごくおもしろかったです。

「日本語研修ショートステイを終えて」(3)

アンナ・ピエジツカ

(高校生)

わたしはアンナ・ピエジツカです。

日本はきれいだと思います。日本のぶんかはとてもおもしろいです。おおさかときょうとはびっくりさせるようです。ひぐちさんときしさんはしんせつでした。ホームステイはすばりしかったです。ありがとうございます、日ポ・サロン。

日本でならがーばんすきでした。ならのしかはかわいかったです。とうだいじはとてもよかったです。きょうとのごしょもすきです。おいけにわはきれいでした。きょうとのマンガミュージアムはおもしろかったです。まんががたくさんあります。ポーランドのまんがもみました。きんかくじはりっぱでした。にほん人はやさしくて、たすけになることがおあったです。わたしは日本でいいときをすごしました。

日本のりょうりはおもしろかったです。オムライスはとてもおいしかったです。こうべでてんぷらをつくりました。さわやまさん、ありがとうございます。てんぷらはおいしかったです。むずかしかったが、はしてたべました。ひこうきではしてたべれることをれんしゅうしました。

こけしをかいました。きれいですね。ふたつのせんすをいただきました。かべにかざくて、まいにちこのせんすをみます。すごくきれいですよ。ありがとうございます。

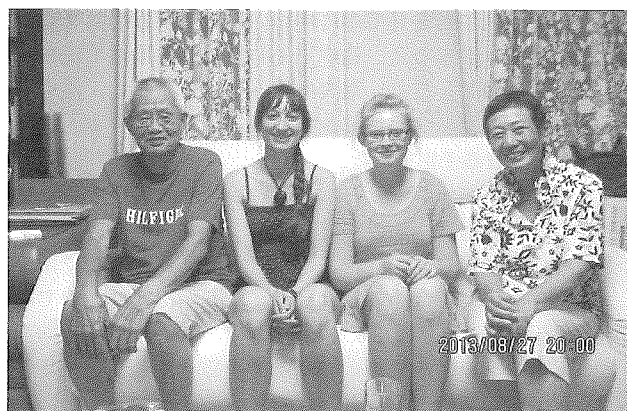
////////////////////////////////////

ポーランドよりサマーショートステイのお客様を迎えて

樋口 清 嗣

いよいよ、本日平成25年8月22日、ポーランドより来日する5人のうち、二人の娘さんをホームステイで1週間預かる日の夜がやって来ました。当方は初めての経験なので、少し不安感もありますが河合さんの配慮で当家には日本語教室の先生も一緒に聞いていましたので、英会話に弱い我が家も日本語で意思疎通は大丈夫でしょう等々、いろいろな事を考えている内に午後9時前に関空へ迎えに行っている家内からもうすぐ地下鉄都島に着くから「迎えに来て」と電話が入り、ワクワクドキドキしながら車で迎えに。そこで二人の娘さん、モニカ、アンナに初対面、日本語で「こんばんは!」「いらっしゃい!」とお互いに挨拶。長旅で疲れているだろうに、若い二人の元気そうな顔を見て一安心。10分ほどで我が家に着き、床の間のある8畳の和室に案内。この部屋で日本式の布団で寝てもらふことにする。二人に我が家のパソコンで母国の家族に「日本に無事到着」の報告をしてもらって、疲れている様子なので風呂に入ってすぐ休んでもらふことに。

今年の夏は大阪も例年より猛暑でホームステイ初日も最高気温37.2度で、夜も29.2度の熱帯夜で、この2週間程は連日の猛暑日なのでハードスケジュールのため身体のこと心配で「大丈夫ですか」と聞いたら、関空に着いて外に出た時は暑さにビックリしたけど「大丈夫、大丈夫」と言ってくれたので一安心しました。



モニカとアンナと樋口夫妻

でも、ポーランドでは今頃最高気温は20度位と聞いてこちらがビックリです。ステイの間は、門限9時と決められていたので、二人で帰宅できるように自宅周辺の地図で地下鉄からバスのアクセスを説明すると、無事に門限までに帰ってきました。でも、毎日無事に帰宅するまで心配で、我が娘二人がまだ家に居る時に夜帰って来るまで、やきもき心配していたのを久しぶりに思い出しました。アンナは孫娘と同じ17歳と言うではないですか。

家内は、2日目の大阪市内の観光めぐりに一日同行していたので、二人と親しくなり「モニカ」「アンナ」と敬語なしで呼んでいましたが、小生は朝食に一緒にするぐらいなので、中々ファーストネームで呼べなかったのですが、だんだん呼べるようになりました。特にステイ最終日には、午後4時ごろには帰宅したので、モニカが気に入っている(危険と言っていた)京阪天満橋にあるユニクロ、ダイソーへ車で行くと買い物を楽しんでいました。帰宅後、大阪名物のたこ焼きでささやかなお別れパーティーをすることになりました。モニカは何回か来日しているので、たこを食べるのは大丈夫でしたが、アンナは食べたことがなくザルのたこを穴が開くほど見ていたので、モニカが「試しに食べてみたら」と言っ、アンナが試食して大丈夫と言ったのでほっとしました。二人に具を入れて、ピックでたこ焼きを1個1個裏返すのを教えながら、4人でワイワイとたこ焼きを楽しみました。初めてビールも一緒に飲み(アンナは未成年でダメ)、場も盛り上がり、折角大阪に来たのだからと、「しんどい」「さら」「おおきに」等の大阪弁を教えたら、奈良へ行った時は「しんどいでした」と早速使ってくれて良かったです。

ステイ最後の朝食の時、高校生のアンナが大学は日本語学科に進む決心をして頑張ると言ったので、日本に来て好印象を持ってきて、このステイもその一助になったのかなと家内共々嬉しかったです。今回のステイ中は、日本語教室の先生モニカと一緒にだったので、その生徒アンナをフォローしてくれて、4人の意思疎通が良くてできました。正にファミリーになれた我が家での1週間のホームステイが終わり、次の京都のステイ先へ行く朝、家内がバス停まで送って行くことになり、玄関先で名残惜しく「気を付けていってらっしゃい」と握手して送り出しました。又、何時か会えることを楽しみにして。

////////////////////////////////////

「こんにちは、はじめまして」

グラジク・マウゴジャタ

(神戸大学国際文化学部)



マウゴジャタ・グラジクと申します。今日は、どうやって皆様のおかげで私の夢を叶うことができたことと、私の日本での生活と、これからやりたいことについてお話ししたいと思っています。

日本のことは、初めて気になったのはまだ子供の頃でした。日本語と日本文化と出会

いのきっかけになったのは、ポーランドのテレビでした。それで、12歳になったから私の夢は日本に行くことでした。日本学科に入学し、トルンのニコラウス・コペルニクス大学で3年間とワルシャワ大学で2年間、つまり日本語を5年間勉強しました。数年間、日本に夢中でしたので、私の頭の中の日本のイメージはとてもエキゾチックでした。すなわち、ヨーロッパやポーランドと全然違う国だと思いました。正直に言うと、飛行機に乗ったときはとてもワクワクし期待しました。

飛行機から降りた時は、青空の美しさ、光、夏の天気には驚きました。ポーランドを出た時はもう寒い秋の天気でした。来たばかりのころは、長い旅で疲れたし、ワクワクしすぎて皆様の援助がなければ、きっと空港から神戸まで自分で到着できないと思いました。初日から皆様の援助をいただき、心から感謝いたします。

神戸にはビックリさせることは山ほどありました。ポーランドは平らな国なので、神戸の坂にすごく驚きました。しかも、神戸には、同じときで海も山も見えるのは信じられないと思いました。綺麗にそろえている庭は私の目を引いて、木の形も完璧でした。しかも庭がなくても家の近いにはいっぱい鉢植えがあります。日本人は自然と調和して暮らすことをよくわかりました。

神戸は最初から好きになりました。とてもエレガント、きれいな、静かな都市だと思いました。神戸のもう一つのいい点は、イベント、展示会やコンサートがすごく多いです。様々な展示会と神戸大学の非常に興味深い授業のおかげで、日本芸術だけではなく、西洋と東洋の芸術に関する知識を広げました。皆様の招待のおかげで、たくさんのコンサートと展示会に行くことができたので、クラシックの音楽を好きになりました。

様々な展示会で、お茶で使われている布、すなわち裂地を拝見できました。私の修士論文のテーマは裂地で作ったものです。茶道に興味を持つことになりましたのは、日本学科1年生の時でした。日本に来て、皆様のおかげで、私の研究と取材は順調に進んでおり、とても嬉しいです。

日本では、各都市は自分の特別な雰囲気を持っていると感じました。例えば、奈良では昔の日本の雰囲気を感じられます。日本の赤い葉は憧れます。奈良の素晴らしいところは、公園や森を散歩しながら、お寺の美しさも楽しめます。東大寺の巨大な南大門と大仏は想像以上に大きく、印象的な景色

でした。皆様のおかげで正倉院の国宝も見ることができました。昔の日本を体験するためには京都にも行きました。京都は駅から降りると意外とモダンな感じの街ですが、三十三間堂を見た後、京都ではモダンと伝統的なものが混ざっていることがよくわかりました。三十三間堂は、奈良のお寺と同じように印象的でした。暗いホールで香合の香り、千手観音立像その雰囲気を絶対に忘れません。仏像と言え、目の作り方は本当に不思議で像はまるで生きているように見えました。私のもう一つの大事な思い出は、清水寺の夜のライトアップです。あの日はずっと雨が降りましたが、むしろそのおかげでもっと素敵な思い出になりました。神戸はワルシャワと同じくらい大きいので、初めて大都市を経験できたのは大阪でした。大阪は、私のアジアのイメージにぴったり合います。特に夜の大阪は、華やかでにぎやかなところです。美味しい食べ物のおい、色の豊かさ、川で映った光、全部に感動しました。

今年のクリスマスは東京で過ごしたので一生忘れません。出発日は天気はとても良かったので、日本のもっとも代表的な景色を眺めることができました。それはもちろん富士山です。富士山が見えたときは、電車の中でしずくなって、乗客は皆、富士山を見ながら写真を撮りました。それは、私のもう一つの日本からの宝物です。

お台場は私の東京のイメージ通り近代的なところでした。モノレールの窓から景色は、本当に素晴らしかったです。しかし、お台場は夜でもきれいです。特にレインボーブリッジと東京湾は美しかったです。お台場はとても穏やかで新鮮な感じのところです。お台場から東京の景色を眺めたときは、スカイツリーは私の目を引いて、そんな高いタワーが本当に存在するのは有り得ないと思いました。ちょうど夕日前に上がったので、午後の都市も夕日にいろどられた空も、夜の東京も見ることができました。

ガイドブックにあるところを観光しに行きたかったです。東京にはとてもユニークな場所があります。例えば、新宿の高層ビルのイメージはビジネス都市の感じで、原宿と渋谷で若者文化を体験することができます。一方、銀座はぜいたくな、世界で有名なブランドのお店もいっぱいありました。秋葉原と池袋は華やかで、浅草はもっと伝統的、ちょっと祭りの感じのところでした。

また青春18切符を使って名古屋に行ってみました。私にとって名古屋の一番きれいなところはお城です。お城の中には展示会があります。そこで、武士のよろいも刀も見えました。日本の昔の街のリコンストラクションがあります。本当に時代が止まったような感じでした。

これからは、文楽、能、歌舞伎もとても見たいです。そして名古屋城の影響で、姫路など様々な日本の城を観光したいです。ヨーロッパの城と全然違うので憧れます。

日本料理の中でまだ知らない材料が多いが、皆様のおかげで本当にたくさんの美味しいものを食べました。一番好きなのは、お好み焼きと鍋です。それは友達や家族と一緒に楽しめる料理だと思います。ポーランドに帰ったら家族と鍋を食べたいです。

毎日は、新しいことを学び、新しいことを体験して、とても幸せな生活をおくれます。大学に通う日も、観光する日も毎日は私の大事な思い出になる日です。日本に留学させていただいて、皆様とお会いできることも、とても光栄だと存じます。誠にありがとうございます。

大正政変 (博士論文要旨)

一第三次桂内閣の成立及び崩壊に伴う政治危機の研究一

ヤヌシュ・ミトコ

(京都大学文学部大学院文学研究科)

1912年に、2個師団増設問題に直面する第2次西園寺内閣が陸軍の圧力によって倒された。後継総理大臣の桂太郎は、すでに内大臣兼侍従長として宮中に入っていたので、宮中と府中の別が乱されたとする批判の声が各方面から上がった。世論の否定的な態度に応じて、院外の政治家、実業家、ジャーナリストが中心となって第1次憲政擁護運動がはじまり、速やかに全国に広がった。

同時に、運動の影響によって、議会の第1党、第2党の政友会と国民党は、内閣不信任案を提出した。桂は自分の政党立憲同志会の創立によって、または勅語によって不信任案の可決を避けようと試みたが、失敗した。内閣は最終的に、組閣からわずか52日後、総辞職に追い込まれた。

このような状況のなかで、憤慨した数万人の民衆が1913年2月10日に帝国議会議事堂を取り囲み、数千人の警察官と衝突した。暴動はすぐに東京全体に広がり、11日には地方にも及んだ。桂の後継者には海軍大将山本権兵衛が任命された。桂内閣の総辞職は、憲政史上、民衆の力によって引き起こされた最初の内閣の総辞職であった。

『大正政変』を題目とする本論文は、「はじめに」と「おわりに」に挟まれる5章から構成される。「はじめに」は、論文全体の概要をまとめるものであり、本要旨書の下記の内容の大部分は、「はじめに」にも含まれている。

第1章では、1950年代から2000年代にいたる大正政変研究史の変遷が整理され、本研究の本論は、第2章からなされる。本研究の目的は、桂内閣と護憲運動の衝突を軸に、大正政変の政治過程を総括的に再構成することである。本論文は、政友会に対抗する議会政党の創立とそれに依拠した政党内閣の組織という進歩的政策の導入を企図していた桂太郎が民衆運動によって打倒された理由を考察する。桂政権とそれに反抗する憲政擁護運動との間に出現した非対称性がなぜ生じたのかを説明することが本論文の主たる目的である。なお、当時の政治危機を理解するのに不可欠であるため、大正政変に先行する、陸軍の一部の手で行われた西園寺内閣倒閣工作の分析を、本研究の第2目的とする。

第2章では、明治天皇崩御の前後の時期を扱う。1912年7月に桂はヨーロッパ外遊に出発した。それは彼の4回目の訪欧であり、彼とともに、若槻礼次郎、後藤新平など、桂に最も近い官僚を伴っての旅行であった。旅行の目的は、西洋の政治家との会見・交流及び昔の友人との再会であり、西洋の政党制度の研究も目的の一つであったとされている。

しかし桂らがサンクトペテルブルクに着いてすぐに、明治天皇の健康状態が悪化したとの知らせが入り、彼らは帰国を決定した。しかし、天皇の崩御に間に合わず、崩御の際にはまだロシアにいた。日本に到着すると、桂は山県有朋によって内大臣兼侍従長として宮中に押し込まれたことを知るのである。

山県の動きは桂の政治活動を制限することになったが、彼を

政界から疎外したのみならず、宮中府中の別が乱れることを恐れた世論の不满を招く結果となった。桂の宮中入りにより政界の再編成が起こり、桂の代わりに寺内正毅が長州派閥の新しいリーダーとなった。陸軍の2個師団増設要求の問題が発生したのも、そのころであった。また増師要求によって西園寺内閣を倒し、寺内を後継総理大臣にする計画が陸軍内で作成され、政府と陸軍の対立が激しさをましつつあった。

第3章では、西園寺内閣の総辞職の状況および桂内閣の成立過程を分析する。陸軍当局はもともと全員一致で増師を支持していたといえるが、11月ごろその中で亀裂が生じた。宇都宮太郎、高島鞆之助ら、陸軍内の妥協グループは、増師の即実現は不可能と判断し、それを将来の計画として政府の整理方針に含めるように内閣と交渉を始めた。一方、上原勇作陸相、田中義一軍務局長の硬派は、政府に対する圧力を増大させた。ただし、寺内が西園寺の後継を承諾する意図を示すと、彼らは西園寺内閣下で新規師団設置を実現することへの興味を失い、まずは現内閣の倒閣と寺内内閣の実現を第1目的とした。妥協グループの努力にもかかわらず、上原らはどうとう内閣を倒したが、後継総理大臣の選任に関して天皇から下問を受けた元老会議は寺内を後継首班とせず、西園寺の留任や松方正義の就任を望んだ。両者が固辞すると、一時平田東助と山本権兵衛が候補となったが、いずれも挫折し、最終的には、一度政界から手を引いた桂に托されることになった。

新総理は、組閣の前から世論の激しい非難攻撃的となった。西園寺内閣の倒閣が「毒殺」とみなされて世間の憤慨を引き起こし、長閥・陸軍出身の桂はその攻撃的となった。さらに宮中から出た桂の首相就任は、宮中府中の別を乱す非立憲的行為として批判された。すぐに憲政擁護運動が開始され、藩閥政治に反発する民衆がそれに数多く参加した。第4章では、まず組閣後の桂による与党形成工作をとりあげ、その二重性を明らかにする。桂は政友会との提携を拒み、官僚派と関係を維持しながら、新たな与党となるべき新党を組織するため政党政治家を傘下に集め始めた。新党は内閣を衆議院において代表する役割を担っていたが、大臣は全員官僚系であった。ただし、桂政権は内部の葛藤に悩まされ、後藤新平逋相と大浦兼武内相、そして後に加藤高明外相との間に不統一が生じた。

同じ第4章では、憲政擁護運動の開始に大きな役割をはたした交詢社について取り扱う。また運動の中心人物となった政友会の尾崎行雄、国民党の犬飼毅の動向も扱う。彼らが運動によって何を実現しようとしていたのか、その相違点を明らかにしたい。両者は桂政権を非立憲的とみなし、その退陣を要求しており、また、藩閥政治の撤廃と政党政治の導入を求めた。尾崎はそれを達成するため官僚ポストへの自由任用を制限している文官任用令の廃止を提案したが、犬養はその提案を強く批判し、まず閥族を政治から排除すべきだと主張した。その意見の食い違いの原因について、本論文で考察する。

最後の第5章は、第3次内閣の崩壊をテーマとする。政友会は護憲運動からの圧力により、犬養と攻守同盟を結び、内閣不信任案を提出した。桂はその提出を阻止しようと試み、後にその撤回を実現しようとした。しかし、政府の方針の企画者が後藤新平から加藤高明に交代しても、桂の試みは効果を発揮しなかった。内閣は政友会の協力を得られず、加藤の助言は後藤の助言と同じように、西園寺総裁の立場を弱めるだけに終わった。なお、党内の影響力を拡大した原敬と松田正久は、桂に対して強硬路線を取った。内閣は最終的に総辞職に追い込まれ、後継首相に山本権兵衛が任命された。そして、新内閣の与党となった政友会は犬養との同盟を解体し、薩派と連合を結んだが、その動きは政友会の分裂につながった。上記の過程も、本論文の第5章で描かれる。

「おわりに」は、大正政変が日本政界に与えた影響を簡潔にまとめる。特に桂の政党が大正時代の二党制において重要な役割を果たすこととなる事実が強調されている。3度目の桂政権は民衆の批判を買って倒されたにもかかわらず、その政権の最も重要な業績は立憲同志会の創立であったと、筆者は主張しているのである。

「曲水の宴」のタイムトラベル

カロリナ・カミンスカ

2013年4月13日(土)は一生の思い出に残る一日になりました。その日、ポーランドの留学生、マチエイ・コモロフスキさんと二人で「曲水の宴」というイベントに誘われ、素晴らしくて珍しい体験が出来ました「曲水の宴」というのは川沿いで行われ、平安時代由来の貴族の社交性がある遊びで、川の流れてやってくる茶碗をすくって、短歌を考え出して、歌を詠む遊びのことです。

メインイベントの場所は兵庫県、西宮市の北山宴化植物公園でしたので、京都に住んでいる私は電車で行くことにしましたが、その日の朝方、地震があり、乗りたかった電車が走れなくなってしまいました。電車のトラブルで間に合うかどうか大変心配しましたが、何とか間に合って、芦屋駅に着く事ができました。そして、素敵な一日が始まりました。

「曲水の宴」が始まる前に西宮神社会館で平安時代の人らしい格好をする為、髪の毛を結ばれて髪ネットでとめられてから、顔と手を白っぽく塗られ、眉毛を濃い色にされて、真っ赤の口紅をつけられました。そして、髪をかぶせてもらいましたが、髪の毛がとても長くて、かなり重たかったので、最初は頭を真すぐに保つことが出来ず、顎がつい上がってしまいました。最後に明るい十二単を着せてもらいました。十二単はオレンジ色で、裾が紫や緑色で、とても鮮やかで、カラフルでした。それに綺麗な扇と草履、小物も揃っていました。十二単はもちろん、それに合う濃いメイクも髪も、全ては生まれて初めて身につけたものでしたので、いつもと全然違う私の姿にビックリしながら、その変身を楽しんでいました。

準備が終わってから、「曲水の宴」のところに向かいまし



カロリナとマチエイ

た。他の女性と列を作って、北山宴化植物公園を歩いてから外の舞台の前に座って、司会者のスピーチを聞きました。その時、みんなが紹介され、川沿いに座る場所を教えてもらいました。「曲水の宴」の参加者は30名ぐらいの人で、一般参加者だけでなく、詩人や文学の先生もいました。

2013年4月13日は素晴らしい天気でした。青空で、日差しが強かったですが、涼しい風のおかげで暑くはなかったです。

その年は桜がいつもより早く咲いたみたいですが、北山宴化植物公園は遅めに花を咲かせる枝垂れ桜が多くて、満開で綺麗でした。それに参加者は皆、平安時代の衣裳を着ていましたし、会場は当時の音楽が流れていましたので、1000年前の昔の日本へタイムトラベルをしたようでした。そんな独特の雰囲気の中で皆は好きなテーマで、短歌を作っていました。やはり、春や花見の光景を使った歌が多かったです。

私はこんな短歌を作りました。

「春風に 舞い上がる花 目に涙 実家の桜 満開かなあ」

「曲水の宴」のおかげで平安時代へ時間旅行ができたような気がして、具体的な体験をして、昔のしきたりやライフスタイルがより近く感じました。昔の日本の雰囲気を味わって日本の文化をよりよく分かるようになったと思います。その上「曲水の宴」はとても楽しいイベントでした。その魅力的な体験を可能にしてくれた方々に感謝しています。

「ポーランドに渡った日本の昔話のこと」

嶋谷 郁子

ワルシャワ大学の岡崎先生から私が送った絵本が無事大学に到着したことを報せるメールを受け取った時、どんなに嬉しかったことでしょう。

日本名作絵本(TBSブリタニカ出版)29冊は20年ほど前に出版され、当時日本の児童文学を代表する先生方の文章と一流の童話画家の絵からなる豪華なものでしたが、うちの孫たちが成人してからはずっと本棚で眠っていました。これを誰かに見て頂きたい、楽しんで頂きたいとは思っていましたがそのまま時間が過ぎました。

一昨年、日ポに寄贈された貴重な万葉集の全巻をワルシャワ大学に贈られたことを聞きました時に、ふとあの日本学科の教室を思い出しました。ここがポーランドであることを忘れそうな沢山の日本の書籍と目を輝かせて学ぶ学生達・・・この方々に日本の絵本を楽しんで頂ければとても嬉しい。

それで河合さんに相談しました。彼女が岡崎先生に問い合わせさせて下さりOKができました。でもどうやって送ればいいのか？今度は澤瀉さんに送り方を教えて頂きました。

今は世界が狭くなりましたね。20kgを超す重い荷物が一週間でポーランドまで飛んで行きました。後日、岡崎先生から温かいお礼のメールを頂きました。丁度、今年の今頃です。ワルシャワは氷点下の寒さとのことでした。

2014. 1. 26 嶋谷郁子

嶋谷郁子 様

今日、下記のメールが図書館司書から入りました。無事に届いたようで、大変嬉しく思っています。ご厚意に心から感謝いたします。

ちょうど今は冬休みの最中なので、私は来週から大学に行きます。したがって来週初めに頂戴した絵本を拝見することになります。書籍専門の司書がすばらしいと言っていますから本当に立派なシリーズでしょうね。見るのが楽しみです。今、日本学科長は日本に研究留学中ですから、まず彼女に報告して、お礼を申し上げるよう、手配いたします。本当にありがとうございました。

日本はもう梅が咲き始めましたか。こちらはまだ一面の雪で、気温も零度前後が続いています。どうかお身体にお気をつけ下さい。

取り急ぎ絵本落手のご報告とお礼まで。

2013. 2. 15 岡崎恒夫

岡崎先生

いつもお世話になります。月曜日に日本の絵本を無事に受け取りました。素晴らしい絵本のシリーズです。

2013. 2. 15 マルタ



ワルシャワ大学に寄贈された日本名作絵本(全巻)

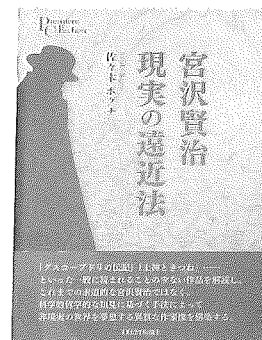
特定非営利活動法人 日ポ・サロン

<http://nipposalon.org/>



「博士号取得のこと」

第23回宮沢賢治賞奨励賞受賞 佐々木(ヤンコフスカ)ボグナさん



宮沢賢治学会イーハトーブセンターより、佐々木(ヤンコフスカ)ボグナさん(人間・環境学研究科博士号取得)が博士論文をもとに改筆して書き上げた作品『宮沢賢治 現実の遠近法』(京都大学学術出版会2013年)において、第23回宮沢賢治賞奨励賞を受賞しました。

本書は、「グスコブドリの伝記」「土神とキツネ」といった一般に読まれることの少ない作品を解説し、これまでの求道的な宮沢賢治ではなく、科学的哲学的な知識に基づく手法によって非現実の世界を夢想する異質な作家論を構築し、賢治童話を日本近代文学に稀な「幻想文学」として捉えなおしたものです。賢治研究の歴史において、外国出身者による新鮮な研究であり、奨励するに値すると評価されました。

関西在住日ポ・サロン後援留学生(2013年度)

ヤヌシュ・ミトコ	京都大学文学部大学院文学研究科
マルチン・タタルチュク	京都大学文学部大学院
佐々木・ボグナ・ヤンコフスカ	京都大学ポーランド講座講師
アガタ・ヴェルボウスカ	神戸大学経済学部大学院
マチェイ・コモロフスキ	神戸大学国際文化学部
グラジク・マウゴジャタ	神戸大学国際文化学部
カロリナ・カミンスカ	元同志社大学日本語学科

編集後記

2013年度は8人もの新入会員をお迎えすることが出来何よりの喜びです。2014年は日ポ・サロンは創立15年です。会員の皆様の温かいご支援で続けてこられましたことに感謝申し上げます。会員・留学生の交流も深まり折々の活動時にお出合いできるのが楽しみです。互いによい刺激を頂き励まされます。

次の会報15号には遠方からの原稿をお寄せください。よろしく願い致します。(岸本)